自然科学と人工科学

工学部長　小　堀　為　雄

平成元年12月文部省高等教育局から「変革期の工学教育」という報告書が出された。その中に,「人工系の科学」という表現がある。これはこれまでの自然科学という表現に対するもので，工学が対象としている学問はこれまで自然科学の１部とされて来たが，近年の科学の進歩で，もはや工学は自然科学を越えて人工システムを設計，製作，運用する学問であると位置づけられることを示唆している。

そこで，本材料開発研究室の視点からこのことを考えると，土とか水，木材とか石，石灰，石油といった素材から現代の先端技術によって，セラミックス，超伝導材料や半導体の新素材といった人工材料創造の時代に入って来た現在，分子，量子や電子などの基礎研究が進み，これらの基礎研究を応用して新しい人工材料を造る時代であると考える。

本材料開発研究室は旧複合材料研究施設から昭和60年に改組された研究室であり，教授２名，助手１名で新材料の開発に取り組んでいる。一方では研究室の設備を多くの研究者に開放し研究の開発の促進に貢献していることは喜ばしい。今後の活躍を望みたい。